

# AGS 年次総会学生プロジェクト参加のご案内

## 「AM2010Tokyo Student Project」

AGS 東京大学学生コミュニティ SUS+  
AM2010studentproject 企画グループ

### はじめに

AGS 東京大学学生コミュニティでは、世界各国から持続可能な社会の構築に意欲を持った学生を集め、国際会議の運営や参加者派遣、ワークショップの開催など様々な活動を行ってきました。

これまで主に欧米で開かれてきた国際学生会議には、金銭的理由からアジアからの参加学生が少なく、また英語力や文化の違いから、議論が欧米中心に進められ深刻化するアジア地域の問題やアジアの視点がさほど取り上げられてこなかった現状があります。そこで、本プロジェクトではテーマを

### 『Growing Asian Cities -Structuring Sustainability Problems-』

と掲げ、アジア地域に特化した都市問題等を対象とし、改めて地球規模の持続可能性について話し合う場を提供します。同時に、5泊6日を共に過ごし、将来の日本、アジア、世界を担う学生間のより深い人的交流、情報交換を目的とします。

~AM2010 プロジェクトメンバー一同~

## 募集要項

AM2010Student プロジェクトでは海外学生を招へいして、アジアの都市問題を題材としたワークショップを開催します。

AM2010Student プロジェクトに於ける日本人学生の参加者を募集します。

ワークショップでの使用言語は英語とし、全日程に参加できる学生の参加をお待ちしております。国際交流を含め、持続可能を学際的な立場で議論したい方は是非ご応募よろしくお願い致します。

### 開催日

2010年 3月15日（月）～20日（土）

※全日程への参加が必須条件となります。

### 参加学生

- 東京大学を始めとする日本国内の将来のリーダーとなる学生
- 北京大学、アジア工科大学、ソウル大学、国立台湾大学、
- シンガポール国立大学を含むアジア各国のトップ校の学生
- AGS 加盟大学の学生（マサチューセッツ工科大学、スイス連邦工科大学、チャルマーズ工科大学（スウェーデン））

### 日程・内容に関して

	Day0 (3/15 月)	Day1 (3/16 火)	Day2 (3/17 水)	Day3 (3/18 木)	Day4 (3/19 金)	Day5 (3/20 土)
午前	10:00-12:00 自己紹介 (アイスブレイキング)	10:00-12:00 Workshop (特別講義)	9:00-12:30 AM2010 研究者会議 (Plenary1)	9:00-12:20 AM2010 研究者会議 (Plenary2)	Option (プレゼンテーション準備 or 研究者会議出席)	フィールドトリップ
昼食	12:00-13:30 Option	12:00-13:30 Option	13:00-14:00 Lecture A	13:00-14:00 Lecture B	12:30-14:00 Option	
午後	13:30-17:00 Workshop (問題の共有)	14:00-17:00 Workshop (問題の構造化)	14:00-17:30 AM2010 研究者会議 (Parallel session1)	14:00-17:30 AM2010 研究者会議 (Parallel session2)	14:00-17:00 Workshop (解決策の提案)	
夕食	18:00- 歓迎会	18:00- AM2010 研究者会議 レセプション	18:00-20:00 AM2010 研究者会議 ホスター セッション	18:00- AM2010 研究者会議 夕食会	18:00- 送別会	
夕食後	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間	自由時間	

## ~プログラム内容~

### \* Day 0 (3/15) 自己紹介 (アイスブレイキング)・問題意識の共有・歓迎会

- 持続可能性を議論する前提として、多様なバックグラウンドを持つ参加者の問題意識・価値観の共有を図る。また、アイスブレイキングの今後 5 日間続く本事業におけるコミュニケーションを円滑にし、強固なネットワーク作りを促進する。
- アジアの各大都市が抱える問題を各国の参加者が紹介し、自国、他国、そして両国共通の問題について理解を深める。
- 歓迎会では参加者の母国の環境に関するクイズや民族衣装を披露するファッションショーを開催する。

### \* Day 1 (3/16) 問題の構造化

- アジアの都市で今まさに起こっている諸問題について、サステナビリティ・サイエンスからの手法を利用することで、複雑な問題構造の把握を行う。アリゾナ州立大学サステナビリティスクール教授、Arnim Wiek 先生の特別講義にてその手法をご紹介頂く。
- 「Structuring」とはシステム思考をするための手法の一つであり、以下の 2 点の理由から、サステナビリティを議論する上で非常に有用である。
- サステナビリティに関わる諸問題は複雑かつ多様である。この手法で問題構造を把握することによって、全体像を俯瞰的に捉えることができる。
- 概念的な表現手法により、個人の考えを全体で共有するのに有用である。

### \* Day 2 (3/17) 研究者会議への出席 (東京大学主催の AGS 年次総会)

- AM の年次総会とポスターセッションへの参加

### \* Day 3 (3/18) 研究者会議への出席 (東京大学主催の AGS 年次総会)

- 年次総会と夕食会への参加

### \* Day 4 (3/19) 解決策の提案・送別会

- 問題構造を理解した上で解決策を提案する。最優秀のグループには賞品を贈る。審査は、株式会社 PEAR カーボンオフセット・イニシアティブ社長松尾直樹氏、アリゾナ州立大学教授 Arnim Wiek 氏を含む協賛企業関係者もしくは有識者が行う予定である。
- 送別会では協賛下さった団体、個人もお招きし、各国参加者との交流を深める。

### \* Day 5 (3/20) フィールドトリップ (変更の可能性有り)

三井不動産のプロジェクトの一つである「豊洲再開発地区ららぽーと豊洲、及びパークシティ豊洲」を参加者と訪れる。担当者に開発地をご案内頂き、講演、インタビューを行う。目的として下記 3 点の理解が挙げられる。

1. 豊洲再開発プロジェクトは、「産業拠点から商業・住居地区への転換」という、(工業化が進むアジアの途上国がその段階として直面するであろう) 重要な課題を、日本の都市・東京ではいかに見つけ、どのように乗り越えたのか、を考えるモデルケースとなりうると考えたため。特にアジアの学生にとっては自国の問題として捉えることができ、非常に大きな意味を持つと考える。
2. フィールドトリップまでの 5 日間に議論してきたサステナビリティに関わる問題の構造化や解決策の提示など、それが現実から離れていないか、参加者が仮説を持って都市の現場を見ることによって、より一層深い学びが得られると考えるため。
3. 室内での議論の後に、美しい景観の中で語り、ともに学ぶことで、参加学生のさらなる交流が期待できるため。参加者同士の関係の緊密化は、学生プロジェクト企画の目的の一つである「アジア各国の学生のネットワーク作り」にとって必要不可欠である。

#### 応募に関して

応募用紙の履歴・質問を記載の上、2月12日(金曜)までに [agsam2010application@gmail.com](mailto:agsam2010application@gmail.com) にメールで添付し、件名には【AM2010 日本人学生募集】として送信願います。

なお、質問1は英語で、質問2は日本語でご回答ください。履歴は英文・日本語文問いません。

締め切り 2月12日(金曜日)

募集人数 5~7人

期間 : 5泊6日(3月15日~3月20日)

宿泊場所: 国立オリンピック代々木センター (最寄駅: 小田急線参宮橋駅)

※原則、セッション期間中はこちらに滞在していただきます。

皆様の提出をお待ちしております

以上